

板橋セーフティー・ネットワークへの参加

板橋区新聞販売同業組合

地元警察署と協力した防犯活動 参加意識が緊張感をもたらし 交通ルール順守につながる

- 実施期間
平成 15 年 10 月 2 日～
- 実施地域
東京都板橋区全域
- 活動概要

板橋区新聞販売同業組合は、平成 15 年 10 月に、板橋区と板橋・志村・高島平の 3 警察署が合同で立ち上げた「板橋セーフティー・ネットワーク」に発足当初から参加。配達中に発見した不審者・不審物の警察への通報、パトロール実施中のポスターの店頭掲示、学校周辺のパトロール強化、3 警察署からの依頼に応じた防犯チラシの無料折り込みなどを行っている。

板橋区によると、同区内の犯罪件数は平成 11 年から 5 年連続で増加し、平成 15 年のピーク時に 1 万 2 千件だったが、平成 16 年には、減少に転じた。

*

板橋区新聞販売同業組合＝板橋区内で 6 紙を販売する 54 販売所で組織。大村智永組合長。



「パトロール中」のステッカーをバイクに固定し、配達している

「防犯」で警察と連携

板橋セーフティー・ネットワーク 区役所で発足式

急増する街頭犯罪や侵入盗の犯罪抑止と犯罪の早期解決を目的に、板橋区、板橋・志村・高島平の三警察署、板橋区新聞販売同業組合（大村智永組合長）をはじめとする事業者の三者で作る「板橋セーフティー・ネットワーク」が 10 月 2 日、板橋区役所で発足した。同ネットワークの活動は、同区内で配達・検針等の業務

に従事している外勤職員が、勤務中に不審者を発見した場合は、警察へ通報をする。発足式には、石塚雄雄板橋区長をはじめ川尻敏規板橋署長、牧野正寛志村署長、荒井賢太郎高島平署長、事業者の代表者ら 40 人が出席。板橋組合からは大村組合長、甲田常洋相談役が出席した。

まず、石塚区長が「板橋区内の犯罪件数が急増していることから、犯罪抑止と犯罪の早期解決を積極的に取り組まなければならない」と考え、「板橋セーフティー・ネットワーク」を発足することになった。ネットワークに参加する 11 事業者の外勤職員は総勢 3 千五百名となり、皆さんの活躍により犯罪が減ることを

期待する。あいさつした。続いて、川尻板橋警察署長が板橋区内の一月から八月までの犯罪発生状況について「犯罪発生件数は七千八百八十件で、前年同期に比べ四百三十二件の増加。検察件数は千八百五十七件で前年比五十一件の増えていると報告した。続けて犯罪の中でも突出して増加している「ひったくり」に

ついては、「本年上期で二百三十七件起っており、昨年比で百件以上も増えている。『ひったくり』は自転車やバイクを使った犯行が多く、お年寄りや女性など弱者を狙った卑劣な犯罪」と指摘した。また、被害者が被害にあつてから二〇番通報するまでには平均八分も時間がかかっている状況を説明した上で、「八分もあれば、バイクを使えば犯行の場を遠くまでいけるため、警察が到着するまでに逃げられてしまつてしまうのが実態である。ネットワークが機能することになると大きな力となる。『ひったくり』の現場を見たり、

不審者を見つけた場合はただちに二〇番をしてもらいたい。二千五百人の目がまちに向けば、犯罪抑止や検挙に素晴らしい力を発揮してくれるのではないかと期待している」と述べた。事業者を代表してあいさつした秋葉信明板橋北郵便局長が「二件でも犯罪がなくなることを願い、十二事業者が協力しあえばネットワーク活動に全力を尽くしたい」と決意を語った。



「今、日本の安全神話は崩壊しつつあります。板橋区においても、区警察と協働して犯罪の未然防止活動を行うことを宣言します」と力強く決意表明をした「写真」。

荒井高島平警察署長の号令で「パトロール中」のステッカーと腕章を付けた各事業者のスタッフが自動車やバイク、自転車などで出発し、式典は終了した。

次に、発起人の区長・三警察署長と各事業者の間で協定書が交換され発足式は終了した。その後、区役所正面玄関で行なわれた出発式では、あいさつに立った牧野志村警察署長が「警察への通報を目的にしているため、不審者の追跡、捕獲等、危険が及ぶような行為はしないように」と強調した。

続いて、事業者を代表して大村組合長が発壇し、「今、日本の安全神話は崩壊しつつあります。板橋区においても、区警察と協働して犯罪の未然防止活動を行うことを宣言します」と力強く決意表明をした「写真」。

区民の皆様のご協力であると同時に、板橋区を拠点に活動している、私たち事業者の願いでもあります。今回この「板橋セーフティー・ネットワーク」に参加した事業者は、区内の最前線で活動しており、区内をすみずみまで熟知したスペシャリストの集団であると思っております。これからは、板橋区内の犯罪を未然に防止するために、日常の業務を行なう際に、防犯の観点も加えて業務を行なってまいります。ここに、今回参加した事業者すべてが、板橋区内の犯罪を一件でも減らすために、区警察と協働して犯罪の未然防止活動を行うことを宣言します」と力強く決意表明をした「写真」。

異常事態支援サービス

名古屋市中日会、名古屋新市内中日会

事前登録による
支援サービス
迅速な連絡で人命救助も

- 実施期間
2003年4月～
 - 実施地域
愛知県名古屋市16区（市内全域）、日進市、豊明市および東郷町
 - 活動概要
名古屋市中日会および名古屋新市内中日会は、平成15年4月の名古屋市天白区を皮切りに、名古屋市全域（16区）と近郊の日進市、豊明市、東郷町の計3市1町で、新聞を購読している高齢者夫婦、ひとり暮らしの高齢者などの事前登録により、異常事態の支援サービスを行っている。
- 新聞が抜き取られず、新聞受けにたまっていた場合には、配達スタッフが声を掛け、異常が確認できれば、事前登録した緊急連絡先に電話する。それでも連絡がつかない場合には、民生委員や学区長、警察、救急に連絡する。この活動は、配達業務や集金などの通常業務の延長としてできることが特徴である。平成19年3月時点の登録加入件数は、3,482件。これまでに、2件の人命救助の事例がある。平成18年には新聞販売業界で初のビジネス・モデル特許を取得した。

*

名古屋市中日会・名古屋新市内中日会＝中日新聞販売所で組織。名古屋市中日会は197販売所、名古屋新市内中日会は104販売所が加盟。

E・S・Sは新聞販売店が行う無料の異常事態支援サービスです。
このサービスに加入し、登録すると

あっ、新聞が残ってる!!

ただちに店へ連絡

見守る、スタッフ!
全店体制で見守ります!
見守る目は増えれば増えるほど確実です。

配達スタッフ: あっ、新聞が残っている!
見守るスタッフ: お留守とは聞いてないけど...
配達スタッフ: 区域まわりや配達業務の折も目を配っています。

異常事態支援サービス E・S・S Emergency Support Service
特許第3759596号

このサービスは、中日新聞販売店が読者に対して行う無料サービスであり、救命を義務とされるものではありません。

この制度は新聞をお届けしている私たちにしかできないことです。
このサービスへのお問い合わせ、ご登録は新聞をお届けしている中日新聞販売店へ!

サービスを案内する折り込み広告(チラシ)

ポストにたまった新聞…

販売店員が連携 独居の老人救う



大川八重子さん

中村区内の独り暮らしのお年寄りが先月中旬、自宅に倒れていたところを新聞販売店員が発見され、一命を取り留めた。ポストにたまった新聞がSOSのサインに。店員らのこまやかな気づきと機転がお年寄りを救った。

大川さんら

発見したのは、中日新聞黄金専売所（中村区白子町）のスタッフ大川八重子さん（80）。先月十九日朝、客の八十代の女性方を訪ねたところ、この女性が疊の上で倒れていた。意識はあつたが、体が震えるなどし、聞の取り込み状況を注視深く観察しているという。大川さんは「新聞が異常を叫んでくれた。スタッフ同士が連携して、喜ばれることができて良かったと笑顔を見せた。（平井一敏）

と大川さん。この一週間前、女性方を担当する配達員から「新聞が取り込まれていない」と聞いて以来、ほぼ毎日訪ねて女性に声を掛けていた。いつもの元気な声が返ってこなかったため、異変に気付いたとい

中日新聞 平成18年3月1日付朝刊

中日新聞 2007年(平成19年)9月11日(火曜日)

「独り暮らし宅のポストに朝刊残ってる」

中日配達員らに 消防署が感謝状

意識不明の高齢者を救助

独り暮らしのお年寄りの人命救助に貢献したとして北消防署は10日、北区安井2の中日新聞成願寺専売店の配達員ら3人に署長感謝状を贈った。お年寄りは、中日販売店の異常事態支援サービス（E・S・S）に登録していたため、ポストに新聞がたまっていたのに配達員が気づき、迅速な連絡や応急処置により命が救われた。（太田鉄弥）

北区「異常事態支援」が奏功

配りに来た多賀さんが、ポストに朝刊が残っているのを見つけた。異常に気が付いた。縁側の方に回ると、女性が倒れているのを発見。連絡で駆けつけた掛見さん、吉元さんとともに水を飲ませるなど応急処置をした。当日は最高気温三六・九度の猛暑日。女性は脱水症で危険な状態だった。救急車で病院に運ばれ、一命を取り留めた。家族にもすぐに連絡がついて、E・S・Sの働きが感謝されたという。

北消防署の三輪弘光署長は「一人だとお年寄りのお年寄りだけでなく、自身も不安だし、離れて暮らす子どもも心配している」と、地域の「見守り」に感謝。多賀さんは「いつもは新聞を受け取りに玄関まで出てくる人なので、おかしいなと思った。助かって良かった」と胸をなで下ろした。

E・S・Sは中日販売店の無料サービス。配達員や集金スタッフが、新聞が屋内に取り込まれていないのに気づくと本人に電話して安否を確認。応答がなければ家族に連絡する。

人命救助につながったのは昨年二月の中村区に続き二例目。独り暮らしのお年寄りだけでなく、身赴任者や若者、高齢者同士で暮らす世帯でも利用されている。



三輪弘光署長から感謝状を受けた（左2人目から）多賀亀子さん、掛見直人さん、吉元八重子さん＝北区の北消防署で

中日新聞 平成19年9月11日付朝刊

北日本新聞「愛のひと声運動」

北日本会

配達ネットワークを生かし 人命救助に多大な尽力

■実施期間

平成14年6月1日～

■実施地域

富山県内全域

■活動概要

北日本会は、富山県内全域にわたる販売所従業員約3,200人の配達ネットワークを生かし、高齢者世帯で、緊急を要する病人やけが人の早期発見を目的とした地域貢献ボランティア事業「愛のひと声運動」を平成14年6月から開始した。

新聞受けにたまった新聞を見て、異変に気付いた場合、販売所を通じて各地域の民生委員や自治会長、社会福祉協議会、警察、消防署などに通報し、病人やけが人の早期発見を目指している。

これまでに34件の救助例（内訳＝路上に倒れていた人の保護16件、徘徊していた人の発見12件、けが人の発見5件、火災の発見1件）などがあり、富山県警生活安全部長や富山警察署長（当時）などから感謝状を受けるなど、社会的な評価を受けている。

*

北日本会＝北日本新聞販売所で組織。前沢良平会長。

「愛のひと声運動」に感謝状
県内全域に広がる配達ネットワークを生かし、高齢者世帯で、緊急を要する病人やけが人の早期発見を目的とした地域貢献ボランティア事業「愛のひと声運動」を平成14年6月から開始した。この活動により、これまで34件の救助例（内訳＝路上に倒れていた人の保護16件、徘徊していた人の発見12件、けが人の発見5件、火災の発見1件）などがあり、富山県警生活安全部長や富山警察署長（当時）などから感謝状を受けるなど、社会的な評価を受けている。

県警「人命救助に成果」
北日本新聞販売所は、県警生活安全部長から感謝状を受け、前沢良平会長（前左）と上野三喜北日本会会長（前右）が授け渡した。感謝状には、「愛のひと声運動」を通じて、高齢者世帯で、緊急を要する病人やけが人の早期発見を目的とした地域貢献ボランティア事業「愛のひと声運動」を平成14年6月から開始した。この活動により、これまで34件の救助例（内訳＝路上に倒れていた人の保護16件、徘徊していた人の発見12件、けが人の発見5件、火災の発見1件）などがあり、富山県警生活安全部長や富山警察署長（当時）などから感謝状を受けるなど、社会的な評価を受けている。

感謝状
富山署生活安全部長から感謝状を受け、前沢良平会長（前左）と上野三喜北日本会会長（前右）が授け渡した。感謝状には、「愛のひと声運動」を通じて、高齢者世帯で、緊急を要する病人やけが人の早期発見を目的とした地域貢献ボランティア事業「愛のひと声運動」を平成14年6月から開始した。この活動により、これまで34件の救助例（内訳＝路上に倒れていた人の保護16件、徘徊していた人の発見12件、けが人の発見5件、火災の発見1件）などがあり、富山県警生活安全部長や富山警察署長（当時）などから感謝状を受けるなど、社会的な評価を受けている。

地域に不審火警戒要請
高岡市教委 本社販売所も協力
高岡市の不審火、南野町で発生した。この要請に際し、北日本新聞販売所は、高岡市教委と連携し、地域に不審火警戒を要請した。北日本新聞販売所は、高岡市教委と連携し、地域に不審火警戒を要請した。北日本新聞販売所は、高岡市教委と連携し、地域に不審火警戒を要請した。

お年寄り保護で感謝状
富山署 山谷・本紙掛尾販売店主に
富山署は十七日、深夜市今泉で車道歩道に徘徊していた高齢者を保護し、山谷・本紙掛尾販売店主に感謝状を贈った。山谷・本紙掛尾販売店主は、徘徊していた高齢者を発見し、高岡市教委に通報し、保護に協力した。富山署は、山谷・本紙掛尾販売店主に感謝状を贈った。

市教委から協力要請
北日本新聞 平成19年6月2日付朝刊
高岡市教委から感謝状を贈られる山谷さん（右）＝富山署生活安全部長と山谷さん（左）＝山谷・本紙掛尾販売店主との授け渡し風景。

市教委から協力要請
北日本新聞 平成19年6月2日付朝刊
高岡市教委から感謝状を贈られる山谷さん（右）＝富山署生活安全部長と山谷さん（左）＝山谷・本紙掛尾販売店主との授け渡し風景。

活動の実績（34件の一覧）

年月日	時間	販売店	肩書	内容
平成14年9月26日	早朝	清水店	従業員	民家で倒れている女性を発見、交番に知らせた。親族から感謝の電話があった。
平成14年10月11日	午後5時	射北店	従業員	新聞がたまっているのを不審に思い、親類を呼び、民家で倒れている男性を発見。119番した。
平成14年11月16日	午前4時	砺波南庄川店	店主	徘徊老人を発見し保護。井波署に連絡。軽い痴呆症で、家を勝手に出てしまうことがあるということだった。
平成15年4月18日	午前4時10分	砺波南庄川店	従業員	徘徊老人を発見し保護。近所の人がどわわり自宅に連れて行った。販売店へお礼の電話があった。
平成15年5月30日	午後5時	氷見北部店	主任	氷見市鞍川歯科前の市道で転倒している老人を発見。老人と自転車を車で自宅まで送った。
平成15年6月26日	早朝	前沢店	店主	酔って歩道と車道の間で横になっている男性を発見。警察へ連絡した。
平成15年7月13日	午前4時	城端店	従業員	配達途中にうめき声に気づき、親戚に連絡。自宅で倒れていた女性を発見。販売店にお礼の電話があった。
平成15年8月28日	午前5時	小杉店	従業員	玄関で倒れている人を見つけた。救急車をよぶ。
平成15年10月18日	午後6時	西滑川店	従業員	新聞がたまっているのを不審に思い、民生委員に連絡し、警察に通報してもらった。
平成15年10月27日	午前4時	上市店	従業員	散歩中に具合が悪くなり倒れていた老人を発見。店主に連絡し、毛布を用意し介護。店主が車で自宅に送った。
平成15年12月9日	午前4時20分	城端店	従業員	玄関前で倒れている老人を発見。呼び鈴を鳴らし家人を起こし、連絡。救急車を呼ぶ。
平成15年12月19日	午前3時	掛尾店	従業員	パジャマにスリッパ姿の男性を発見。店に連絡し、店主が男性を店に連れて帰り、富山署に連絡。
平成15年12月26日	午前4時20分	砺波南庄川店	従業員	雨に濡れたまま自転車を押している男性を発見。店主に連絡し、井波署に連絡。家族から捜索願が出ていた。
平成16年2月2日	午前3時	掛尾店	店主	腰を大きく曲げた女性を発見。店に連れて帰り110番。富山署に捜索願が出ていた。
平成16年2月23日	早朝	販売KK	従業員	新聞がたまっているのを不審に思い、民生委員に連絡。市福祉活動員が親類の了承を得て、自宅に入りベッドで倒れている女性を発見。
平成16年2月28日	午前4時30分	舟橋店	従業員	民家の車庫で、顔から血を流して倒れていた男性を発見。110番し店にも連絡。店主、店主息子が励ましていた。
平成16年3月11日	午前2時30分	速川店	店主	新聞配達運転手は、高齢女性を保護。速川店に連れて行った。店主は駐在所長に来てもらい、身元を確認し家族に連絡。女性は無事帰宅。
平成16年9月29日	午前4時	福光店	従業員	店主から説明を受けていた、福光署から捜査協力を求められていた男性を発見。福光署に連絡した。
平成16年10月15日	午前3時30分	氷見南條店	従業員	玄関の段差と車に体を挟まれて動けなくなっているびしょ濡れの高齢女性を発見。保護した。
平成16年12月30日	午前3時	KS太閤山	従業員	老人と10代女性に遭遇。道に迷った男性の家を探していた。二人を営業所に連れて行って警察に連絡。身元確認した。
平成17年2月13日	午前4時30分	朝日店	従業員	路上で、雪の上でうずくまっていた80代女性を保護し、入善署朝日交番へ送り届けた。
平成17年3月31日	午前2時50分	速星店	従業員	朝刊配達中に、徘徊しているおばあさんを見守り保護。110番通報し八尾署へ連絡。老人は無事自宅に戻った。
平成17年4月20日	午後3時30分	KS魚津	従業員	夕刊配達中に、頭から血を流して倒れている女性を発見。すぐに救急車を呼び、魚津労災病院で手当を受け、無事帰宅した。
平成17年5月13日	午前2時50分	砺波西部店	従業員	朝刊配達中に、車のボンネットから火が出ているのを発見。向かいの住民に119番通報してもらい火災を消し止めた。けが人はなく大事に至らなかった。
平成17年7月25日	午後3時30分	城端店	従業員	夕刊配達中に、自転車から転倒し仰向けに倒れている小学生を見つけた。救急車を呼び病院に搬送される間、親の勤め先を聞いたり励ましたりした。
平成17年8月3日	午前4時15分	掛尾店	従業員	朝刊配達中、道路の花壇に座っている女性を発見保護。通送員が田村さんの自宅から販売店に連れてきて警察に連絡。女性は無事帰宅。
平成17年8月16日	午前3時30分	KS立山	従業員	朝刊配達中に立山町大石原で、入院着姿でスリッパを履いた男性のお年寄りが道を歩いているのを発見・保護。警察に通報し、無事帰宅。
平成17年9月18日	午前3時	KS高岡	従業員	朝刊配達中に高岡市寺町で、顔から血を流して倒れている90歳の女性を発見し119番通報した。無事帰宅。
平成17年11月6日	午後5時	高岡西店	従業員	集合中に男性宅でうめき声が聞こえたため、KS高岡職員、柴田さんとともに家に入り、脳溢血で倒れていた男性を救急車で病院に搬送。
平成17年12月24日	午前9時30分	速星店	店主	店舗前の道路で転倒して動けなくなっていた近所の男性を自宅まで送り届け、本社に感謝の手紙が届いた。
平成18年1月30日	午前3時30分	KS高岡南部	従業員	朝刊配達中に高岡市木津の路上で頭から血を流して倒れているお年寄りを発見。119番通報し、救急車が到着するまでお年寄りを励ました。
平成18年4月5日	午前6時	上滝	従業員	朝刊配達後、富山市月岡町の路上をふらついているお年寄りを発見。警察・店主に連絡し、駆けつけた店主が車で自宅まで送り届けた。
平成19年3月11日	午前4時	中伏木	主任	朝刊配達中、道路脇に倒れているお年寄りを発見。近くの男性社員に助けを求めた。その社員の家族が救急車を呼び、体を毛布で包むなど介抱した。
平成19年3月23日	早朝	KS富山	従業員	朝刊配達中、三日前から新聞がたまっているのを不審に思い、センターに連絡し警察と民生委員が倒れている男性を保護した。

**本紙配達中
発見し通報**
富山県市町の北日本新聞
富山県市町の北日本新聞
富山県市町の北日本新聞
富山県市町の北日本新聞

脳梗塞女性(富山)助かる
富山県市町の北日本新聞
富山県市町の北日本新聞
富山県市町の北日本新聞
富山県市町の北日本新聞

見守りネットが効果
富山県市町の北日本新聞
富山県市町の北日本新聞
富山県市町の北日本新聞
富山県市町の北日本新聞

北日本新聞 平成14年9月28日付朝刊

▲地域密着の特性生かす
富山県内全域にめぐらせた新聞配達網を生かし、販売店従業員約3,200人が高齢者世帯などで緊急を要する病人やけが人の早期発見を目指している。毎日ほぼ同じ時間、同じ町内を回る配達スタッフが、新聞受けに何日分もの新聞がたまっているなどの異変に気づいた場合、販売店を通じて地域の民生委員や自治会長、警察署、消防署などに通報して、速やかな対応を進めている。

◀高まる信頼感
高齢者の保護活動などに対して、平成15年1月10日に富山県警生活保安部長から「疾病高齢者を早期に発見し、人命救助に尽力するなど成果をあげた」として感謝状を受けたほか、16年2月17日には深夜にお年寄りを保護した販売店主が富山署長から感謝状を受けた。また、19年6月1日には、中学校グラウンドなどで夜間の不審火が相次いだ高岡市教育委員会から配達スタッフへの協力要請があり、県西部の33店で通報体制を整えた。

配達中に車火災発見
北日本新聞 平成17年5月13日付朝刊
配達中に車火災発見
配達中に車火災発見

北日本新聞 平成17年5月13日付朝刊

**倒れていた男性救助
交番に連絡病院へ**
北日本新聞 平成19年3月24日付朝刊
倒れていた男性救助
交番に連絡病院へ

北日本新聞 平成19年3月24日付朝刊

▲紙面掲載で紹介
活動には富山県、富山県警察本部、富山県社会福祉協議会、富山県民生委員児童委員協議会など多くの機関・団体の協力を得ている。救助などの活動事例は「愛のひと声運動」のロゴマークを付けて記事で紹介、県民に理解を深めていただいている。